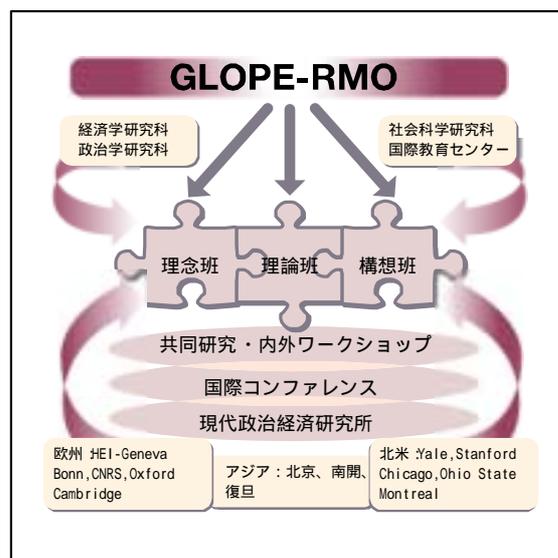


【分野名：社会科学】

大 学 名	早稲田大学
拠点のプログラム名称	開かれた政治経済制度の構築
中核となる専攻等名	経済学研究科応用経済学専攻
拠点リーダー氏名	藪下史郎

《拠点形成の概要》

国際化、脱国境化といわれるように、いろいろな意味で「開かれた」状況が現実には生じている。例えば、金融株制度では銀行と証券会社の壁が取り払われたり、外資が参入してきている。選挙制度でも、地方税を払っている外国人労働者に選挙権を認めるべきという議論がある。今まで日本の中だけで考えれば良かった制度が、開かれた状況に直面している。こうした流動的な状況において、制度をどう見直すのか、そこにどのような公共哲学、理念が必要なのかを再検討する必要がある。また、本来、一緒に考えられていた政治学と



経済学は、20世紀に入って、それぞれ独自の道を歩き始め、専門化してきた。しかし、近年、現実の問題を分析するのに政治学だけ、経済学だけでは不十分という議論が起こり、政治学と経済学を再度、統合、融合させる必要性が生じた。

これらを踏まえ、本拠点では早稲田大学国際政治経済研究センター（GLOPE）を設立し、構想、理論、理念の3つの研究班とそれを統括するRMOによって政治学と経済学を融合させた比較政治経済制度分析、公共政治経済哲学といった先端学問領域の研究を展開する。構想班は国際社会における公共経済制度刷新と政治経済的アカウンタビリティを、理論班は民意反映型の合意形成制度設計への実証・実験による理論的接近を、理念班は脱国境化時代における公共性の可能性を主要研究テーマとする。さらに、海外の大学院・研究所や協定校との共同プロジェクト、共同講義を通じて、脱国境化時代に相応しい開かれた政治経済制度を構築するための教育・研究を推進する。